

天然記念物の森を守る

【ムベの除伐作業】

兵庫県赤穂市の坂越浦沖に位置する生島の照葉樹林は国指定天然記念物に指定されています。生島では、古くからムベというつる植物やニタクロチクという竹など、照葉樹林に影響を与える植物が繁茂してきたため、以前から赤穂市や兵庫県森林組合連合会などが中心となり、植生調査や保全活動（定期的な除伐作業など）を行っていました。10年前にもムベの伐採作業を行ったのですが、2021年11月に植生調査を行ったところ、この10年間でまたムベの繁茂が著しく、照葉樹林に悪影響を及ぼしていることがわかりました。そこで今回、約10年ぶりにムベの除伐を行うことを決定し、2022年3月にムベの伐採作業が行われ、アース製薬からもボランティア用員を出し、ムベを伐採する作業に協力しました。



【ナラ枯れ対策】

2022年12月に兵庫県立大学名誉教授の服部先生らが生島で植生調査を行った際にカシノナガキクイムシの被害を受けたアベマキやスダジイなどの樹木が発見されたため、2023年3月に被害状況調査を行いました。その結果、一刻を争う危機的な状況ではないですが、まずはカシノナガキクイムシの発生状況をモニタリング（監視）することになりました。当社には「かしながホイホイ」というカシノナガキクイムシ対策商品がありますので、これを使ってモニタリングを行いました。当社は、被害状況調査やモニタリング（「かしながホイホイ」の設置や回収）に協力し、モニタリングに使用する「かしながホイホイ」を提供しました。生島は、当社の研究・生産拠点がある坂越工場から目と鼻の先ですので、これからも生島の照葉樹林保全に積極的に取り組んでいきます。

